

流震^有上津那木の半未考旗幟の幟、幟
の字の誤りや幟、旗なり、^有府に陸
奥にふり、^有軍副乃軍監軍曹木の位に
府を至る、^有聖武天皇二年なり、首豪
とい夷賊の首をいふなり、^有七令詩に馳
鳴、^有翦剛豪落勁翽とあり、豪、獸之翽ハ
多なり、ツバサと訓を、^有伴は夷賊を、^有麻族
奔、^有鼠おといふ、^有又、^有准とて、^有とく、^有さう
や、

同元慶三年正月七日丁酉授秋田直講義

連清名無位從五位下、是日出羽国飛驒奏
言、^有太歲十二月十日凶賊悔返逆之過、致東
手之請、便返進所、掠奪甲二十二領、言曰、所
取甲冑其數不少、任己狂心、皆悉截破、補身
約裁、^有一無全者、加之賊類、或入奥地、或所居
隔遠、其遺甲冑搜求追進、於是正六位上左
衛門權少尉兼權掾清原真人令望、左馬權
大允正七位下藤原朝臣滋實、右近衛將曹
兼權大目從七位上茨田連貞額等進議曰、
今乞降之賊二百人所進之甲二十有餘、賊